

福岡県立ひびき高等学校 令和元年度（平成31年度） 学校自己評価表 （定時制課程）

（計画段階）**実施段階**

福岡県立ひびき高等学校長 印

17

学校運営方針		学校運営計画（4月）		評価（3月）		
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標			
<p>創立90周年を越え、単位制・三部制高校としての本校の存在意義は地域において一定の評価を得ている。さまざまな学びのスタイルとサポートが提供されていることに対する期待は大きい。</p> <p>新学習指導要領の全面実施を控え、その理念である「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく必要がある。また、生徒に社会の形成者としての自覚を促し、「なぜ学ぶのか」という問いを生涯持ち続け、将来にわたって学び続ける姿勢を育む必要がある。</p>		<p>校訓「自助・自敬・信愛」のもと、単位制・三部制の特性を活かした教育活動をととして、生徒の個性・能力を伸ばし、豊かな感性と創造力を養うとともに、社会の一員としての強い自覚と実践力「生きる力」を身に付けた人間性豊かな生徒の育成を目指す。</p>		A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題		
教務部	○単位修得率を80%以上を目指す。 ○広報の充実を行う。 ○連携強化	<p>不断の授業改善が出席率向上に繋がり、学びに向かう力を育てていく。生徒理解に努めや電子黒板や図書館等の活用によりアクティブラーニング等の授業を実践していく。</p> <p>入試相談がより適切に行えるように、研修会等でスキルアップする。中学校訪問や体験入学会、HP等で常に情報の発信を行う。職員の連携強化を目指し、情報共有できるように、早く正確な月別行事予定など作成して、報連相の一助とする。保護者教師会や同窓会とも適切に連携を深めていく。</p>	A	<p>○前期終了時点の単位修得率は前年比-2.5%の77.8%であり、一部欠課の基準を厳しくした影響が多少現れたと思われる。ただ後期に入り出席率が昨年度より漸増傾向にあるので、単位修得率の改善が期待できる。次年度も引き続き出席率向上に注力していくが、教務課として直接教員や生徒に対してどのようなアプローチができるか再検討したい。</p> <p>教員の負担軽減のため諸様式やシステムの改善（簡略化・明瞭化）を継続するほか、生徒の学習環境や教員の指導環境改善のため講義室内の机やイス・諸機器の適切な管理・整備にも引き続き取り組む必要がある。</p> <p>令和4年度からの新学習指導要領に向け、次年度、新たなカリキュラムの骨子の策定にガイダンス課や各教科などと協働しながらあたりたい。</p>		
	教務課	前期・後期合計の単位修得率を80%以上とする。（前年度実績76.6%） （前年度実績79.2%）	<p>一部欠課の抑制や欠課時数オーバーの未然防止などに努め、出席率向上にいつそう力を入れる。</p> <p>生徒が授業に対して主体的・前向きに取り組めるよう、講義室等の学習環境を整える。</p> <p>電子黒板やプロジェクター等のICT機器を用いた、生徒の興味関心を高め理解しやすい授業を推進する。</p>	B A A	<p>○入試相談は、新しく係になった先生も経験者の先生と2、3回ペアで行うことで基本的な流れを理解することができ単独で相談に応じられるようになっていく。時間を取るが、中学や他の高校および本校の理解を深める活動なので多くの先生に行って頂きたい。</p> <p>過去3年間の参加者・アクセス数の推移は以下の通り（29→30→31・元年）。学校説明会（231→260→282）、体験入学（295→324→376）、ページアクセス（55000→70000→71470）。高校説明会12校、出前授業2校。以上の数字は本校への関心の高まりを示していると思われる。課題として、興味・関心や進路に応じて本校の単位制・三部制という制度を積極的に活用できる生徒に届く広報をどう行うかである。</p> <p>本年度になかった次年度の計画としては現在、1新しい学校パンフレットの8月中旬までの完成、2夏季休業期間中の英会話や実習科目の公開授業・茶話会が案として上げられている。</p>	
		入試広報課	様々な情報・資料の提供や、諸様式・システム等の改善を実施し、教職員の教育活動の円滑化に資する。	<p>ホームルーム活動等での指導に活用できる情報・資料を提供する。</p> <p>教務関係の諸様式やシステム、手続き等を見直し、より簡略化・明瞭化する。</p> <p>生徒意識調査を年3回実施し、生徒の実態を把握し提示する。</p>		B A B
			入試相談・願書配付を教務部や校務運営委員会が円滑に実施できる体制作り	<p>入試業務研修会を年1回（週3コマの枠を設けて）実施する。</p> <p>教務部の入試相談・願書配付の研修を3回行う。</p> <p>入試相談割を年2回、願書受付割を年4回（後期・I期・II期・転編）作成する。</p>		A B A
	庶務課	広報活動の充実による志願者数10%の増加	<p>中学校訪問を年1回行い、中学生進路相談事業（2・3学区）に参加する。</p> <p>学校説明会と体験入学会を年1回実施し、中学校の高校説明会に20校以上参加する。</p> <p>ポスターと学校案内パンフレットを年1回作成し、学校HPを年100回以上更新する。</p>	A B A		
		他分掌との連携・調整を密にし、業務や行事の円滑化を図る。	<p>他分掌との連絡・調整を密にし、業務や行事の円滑化を図る。</p> <p>月別行事予定を1ヶ月前に知らせる。</p> <p>前年度の反省点を踏まえ今年度の計画を立案する。</p>	B A A		
		図書教育の活性化と保護者教師会の充実	<p>学校図書館の活用や視聴覚教材を活用した授業の促進。</p> <p>役員会や執行委員会への積極的な参加を促し、保護者との連携を図る。</p> <p>総会出席率と委任状回収率の向上を目指す。</p>	A B B		
	生徒指導部	<p>1 第3次ひびきプラン「ひびきたほめ」を推進し、学ぶ意欲・自己実現力・コミュニケーション能力を育成し、健全な社会の形成者としての自覚を持たせる。</p> <p>2 規範意識の向上、人間尊重の精神を育成し、互いの存在を認め、安心・安全な学習環境を確保する。</p> <p>3 学校行事、生徒会企画を通じて学校・家庭・地域社会との連携を強化する。</p>		A		
	生徒指導課	基本的生活習慣の確立	<p>遅刻の防止（新ルールの浸透）</p> <p>「マナーアップひびき」を第5段まで実施する。</p> <p>トラブル未然防止</p>	A A B	<p>○昨年度の一部欠課の時間変更はほぼ全ての生徒に浸透することができた。「マナーアップひびき」の次のステージとして、「ロールプレイングひびき（RPH）」を始めた。職員室の入室等の指導に力を入れた。</p> <p>○ボランティアの年間登録者が昨年度の104名から87名に減少した。しかし、単位化を活用する生徒は昨年度より増えることを期待している。学校行事の出席率は、4月当初は目標の80%以上出席率だったが、ひびき祭を除く学校行事は目標を達成できなかった。今年度もいくつか学校行事が残っているが、次年度はひびき祭以外の学校行事の一つでも80%以上を目指していきたい。</p>	
		学校行事、生徒会活動の活性化	<p>ボランティアの単位化を活用し、ボランティア参加者を増やす。</p> <p>生徒会役員を中心としてPTAと協力し、校外清掃活動を行う。</p> <p>学校行事の充実を図り、行事出席率を80%以上にする。</p>	A B B		
		不登校や中途退学の未然防止・抑制の支援体制の確立化を図る。	<p>「3・6」ルールにかかる教科担当のタッチパネル入力、担任報告をその都度行う。</p> <p>いじめアンケートは毎月1回、家庭用チェックリストは年2回行う。</p> <p>生徒情報交換会の情報が直接、教員の手助けとなるように有意義な会を目指す。</p>	B A A		
	修学課	30%ルール抵触生徒、合理的配慮を要する生徒については、他分掌と協力する。	<p>研修部と連携して生徒理解・教育相談の研修会を行う。</p> <p>学校の立場を明確にし、専門職との連携を的確に図る。</p>	A A B	<p>○「3・6」ルールの対応は、教務課へ移行し、保護者教師会前後の年次集会や「ひびきあい隊」の充実を図りたい。</p> <p>○いじめアンケートの内容で進路について悩んでいる生徒がいるようなので、ガイダンス部と連携していきたい。</p> <p>○研修部と連携して有意義な研修会を年2回設けたい。</p> <p>○年度当初に生活面と学習面のアセスメントを行い、担任と生徒の面談週間を設ける。（授業が始まる前）</p> <p>○校納金等の手続きについては、事務室との連携をとり、生徒の進退についてスムーズに対応していきたい。</p> <p>○保護者との連絡体制の整備</p>	
生徒理解・教育相談の充実を図る。		<p>「クリーンアップひびき」を月1回実施し、生徒全員で清掃活動を行う。</p> <p>掃除道具の点検・整備を前後期1回実施し、校内美化活動を充実させる。</p> <p>毎日の清掃に率先して参加するよう授業やHRでの呼びかけを行う。</p>	A B B			
保健課	清掃活動等、教育環境の整備に向けた取り組みを図る。	<p>「クリーンアップひびき」を月1回実施し、生徒全員で清掃活動を行う。</p> <p>掃除道具の点検・整備を前後期1回実施し、校内美化活動を充実させる。</p> <p>毎日の清掃に率先して参加するよう授業やHRでの呼びかけを行う。</p>	A B B	<p>○月一回の「クリーンアップひびき」は生徒の清掃活動を行う上での意識付ができた。掃除道具の整備が行き届かない点があったので、次年度は充実できるような整備を徹底したい。</p> <p>○献血や清掃活動全般を通してSDG s 推進を意識しながら啓発活動を行ったが、次年度は浸透できるよう関連性を図りながら計画を進めていきたい。</p> <p>○生徒支援に関しては、修学課、保健室、関係機関等との連携を密に図った。次年度もスムーズに対応できるようにしていきたい。</p>		
	保健室経営を充実し、個別の健康相談に対応できるようにする。	<p>諸検診が円滑に実施できるようにし、受診率100パーセントを目指す。</p> <p>SCや訪問相談員と連携し、組織的な支援を行う。</p> <p>個々の生徒に寄り添うため、教員間での情報の共有を図る。</p>	B A A			

ガイダンス部	ガイダンス部	自己を見つめ可能性を発見し、進路について関心を高めさせる。 目標とする進路に関して理解を深め、進路実現へ向け学ぶ力を育む。		A			
	ガイダンス課	進路ガイダンス行事を積極的に活用する生徒の育成	事前指導の2回以上の実施	B	B	○進路行事では、生徒の実態に合わせて参加校や講座内容を設定した。出席率80%の目標は達成できなかったが、参加した生徒はみな良い表情であり、実りあるものとなったといえる。上級学校ガイダンスは来年度のHRの時間帯変更に伴い、実施形態から見直していく必要がある。時間割作成においては新教育課程が目前に迫っていることや成年年齢の引き下げ等により、現状通りにはいかない部分が出てくると思われる。生徒に対してどのようにガイダンスを行うか、検討していきたい。	
			3講座以上の講座の入れ替えおよび精選	A			
		時間割作成につなげる事後指導の実施	B				
		進路実現のための適切な時間割作成ができる生徒の育成	校内研修会の4回の実施	B			
			ガイダンスプロジェクトの活性化	A	A		
			学習ガイドブックの改訂・見直し	A	A		
	進路指導課	キャリア教育を念頭においた卒業後の進路を実現する生徒の育成	進路目標の早期設定	A	A		○生徒の進路実現のために進路希望調査を活用し、その希望により模試受験を促進する。模試の事後指導として個別面談の実施をしたい。また、HRで各年次と協力し、新入年次から計画的に進路学習を行うにより、受講ガイダンスのみならず進路意識を高め、早期に進路目標の設定させたい。進路実現のために何をすべきか生徒への情報伝達を行っていききたい。在学年次の特別進学クラスの希望者が少なかった。年次や講座担当者との情報を共有していきたい。
			進路情報の提供	A			
		模擬試験の受験推進と結果の分析	A				
自らの進路について主体的に考え、学力の向上を図る。		個別指導の推進と体系化	B				
		長期休業中における特別講座の充実	B	B			
		HRでの講演会の実施	A	A			
進路渉外課	適切な勤労観・職業観を持った生徒の育成	インターンシップ（在学年次）の充実	A	A	○インターンシップに関しては、より多くの生徒が効果的に取り組めるよう周知を徹底したい。将来的にはデュアルシステムの導入も検討するべきではないかと考える。また、就職内定率の向上だが、9月受験の生徒がなかなか増えないのが現状である。9月に受験をするためにも新入・在学年次より、就職に対する意識を植えつけていく必要がある。講演会で労働観に結びつくような内容を行うことが求められる。		
		進路学習として講演会の積極的活用	B				
	就職内定率の向上（2月末に90%以上）	A					
	長期的視野に立った進路意識を持った生徒の育成	奨学金制度の周知・活用	A				
		資格取得率、検定合格率の向上	B	A			
		オープンキャンパス等の紹介および積極的活用	A	A			
研修部	研修部	生徒にとって魅力ある学校教育活動を展開するため、教職員の専門的資質を高める支援の充実を図る。授業研修や相互授業参観、生徒による授業評価を実施し、教職員相互の情報交換や互いに学び、支えあう集団作りの推進を図る。各種研修会や公開授業の運営については、他の分掌等との連絡調整を図りながら、教職員のニーズ等に応じた内容の充実を図る。生活体験発表等の行事の効果的な実施により、本校で学ぶ意義や喜びを確認させていきながら、「学びに向かう力」の育成を図る。SDGsに関する教職員の理解を深めるとともに、ESDの観点から教育活動をとらえることができるようにする。生徒海外研修等の諸活動については、生徒が主体的に参加できるよう企画・運営を行う。		A			○授業改善研修会については、年度途中の日程調整を重ねた上で、終日での研修会が実施できた。次年度は日程調整を綿密に行い、教員ニーズを踏まえた、より充実した内容で2回の終日研修を実施したい。校外研修については、多くの先生方が積極的な参加をさせていただき充実したものになった。次年度も本校の課題や教員ニーズに応じた校外研修を企画していく。相互授業参観については、昨年度に比べ参観率が向上した。一方で授業評価については、より授業改善に資するよう評価項目の再検討をしていきたい。公開授業については、次年度の業務移管や運用の在り方を教務部と十分に検討していく必要がある。 ○ESD（SDGs）のテーマに基づく活動は、他の分掌や教科等の中でも実施されており、ほぼ全ての教員及び多くの生徒にこの概念が浸透したと考えられる。次年度は、学校における全ての教育活動について、SDGsのいずれのゴールに該当するのかを意識していきながらテーマや内容設定を行っていくよう働きかけていきたい。また、ESD課としての所期の目的は概ね達成したと考えることから、課の在り方や活動内容、目標などの抜本的見直しが必要である。令和4年度の新教育課程を見据えた学校改革を軸に、本校の教育環境整備、カリキュラム再編、総合的な探究の時間などを熟考する課が必要ではないかと考える。
	研修課	授業改善の推進	授業改善研修会（年2回）の充実	A		A	
			生徒理解を深める研修会（年2回）の実施	B			
			授業改善に向けた校外研修の企画・推進	A			
	授業力・教師力の向上	相互授業参観（年2回）の充実と参加率の向上	授業評価（年2回）の効果的な運営	A	A		
			公開授業（年2回）の効果的な運営	B	B		
	ESD課	ユネスコスクールとしてのESDの推進とSDGsの導入	ESD授業週間の実施（年1回）	A	A		
			関連講演会の実施（年1回）	A			
		Think globally, act locallyをテーマとした諸活動の実践	ESD教育につながる外部団体実施の活動や研修への積極的参加（随時）	B		B	
			環境シンポジウムなどでの発表、展示（年1回）	B			
		国際交流の効果的な受入（随時）	B				
		生徒海外研修の実施（年1回）	A				
年次部	年次部	規範意識を確立させ、基本的な生活習慣を身に着けさせる。生徒一人一人の自己実現に向けて、自ら学ぶ態度及び自ら考え行動できる資質を養う。年次の教員間および保護者との連携を緊密に行い、迅速かつ生徒にとって適切な対応を心がける。		B			
	新入年次部	家庭・地域との連携を図る。	年次通信の発行や保護者会を実施する。	A	A	○本校の特徴を生かし、中学校の頃不登校だった生徒が自らのペースで登校できた生徒もいるが、一方で改善が見込めない生徒もいる。さらに怠学の生徒が重なり、出席率の低下を招いた。これら生徒への指導は担任の見極めに依存してしまい、年次としての指針や目処をつけることができず特に担任には大きな負担を強いた。 ○ボランティア等への行事への参加者が少なかった。社会体験や社会貢献活動を遠慮する生徒たちに、どうやって意識づけをさせていくか模索している。 ○前年度からの不登校の生徒が改善されなかったり、新たな不登校者が出たりしたため、授業出席率・単位修得率ともに前期終了段階では目標を大きく下回った。中途退学者を減少させることも大切だが、登校して学ぶ意思の見えない生徒には早めに進路変更を勧めることも必要である。専門職につなげることが年次として十分にできなかった。 ○年度初めの個人面談で生徒把握と人間関係の構築ができた。時間の確保が難しいが、後期は特に進路が決まっていない生徒を中心に面談をすることで、受講ガイダンスにスムーズに取り組むことができる。 ○模試、検定試験、インターンシップ、ボランティアは個別の呼びかけをしていく。	
			ボランティア活動や地域の行事へ参加する。	B			
		電話連絡、家庭訪問を行う。	A				
		「5分ルール」の遵守、提出物の期限厳守を指導する。	B				
	「時を守り、場を清め、礼を正す」の実践により、社会に適する。	職員室内での言葉遣いを正す。	挨拶の定着のため、教員から第一声を発する。	B	B		
				A			
	在学年次部	授業出席率75%以上、単位修得率80%以上、問題行動の前年比10%減を目指す。	個人面談を随時行う。	B	B		
			修学課、SC、SSW、訪問相談員との緊密な連携を図る。	B			
		自らの個性や適性に応じた学びや自己管理ができる生徒を育成する。	保護者との連絡・家庭訪問を適切に行う。	B			
タッチパネル指導を行う。			B				
		校外模試・検定試験受験やインターンシップ・ボランティアへの積極的な参加を促す。	A	A			
		進路目標を明確にさせる。	A				
卒業年次部	年次部職員全員で生徒の個性や能力・適性に応じた始動をすることで、希望進路を実現する。	個人面談を随時行う。	B	A	○卒年生の個人面談は、担任面談終了後、年次部長や管理職面談等を4・5月中に実施しておいた方がよい。HR・総学の進路学習については、ガイダンス部、担任等と十分に打ち合わせしておく必要がある。その上で、卒年全体で取り組むようにしていきたい。 ○人権学習については、後期ではなく、前期の早い時期に実施した方がよかった。		
		HR・総学の時間に進路学習を5回実施する。	A				
	年次通信を7回発行する。	A					
	様々な機会を利用して生徒の自己管理能力を高め、社会人としての実践力を身につけさせる。	進路面接を3回以上組織的に実施する。	B			B	
就職模試、校外模試等を積極的に受験させる。		B					
		人権学習等を活用し、人権意識を涵養する。	B				